巻　頭　言

元駐大韓民国大使

金山　政英

日韓トンネルの構想は世界ハイウェイの平和的使命の一環として，1981年11月10日ソウル特別市で開催された第10回科学の統一に関する国際会議に於て，この会議を主宰して来られた文鮮明師が唱導されたものである．会議に参列した世界の著名な学者達は満場一致でこの文鮮明師の提案に賛成したのであるが，それは世界平和の理想社会実現という高い理念に対する学者としての賛成の意思表示であり，現実の世界情勢がこの理想とは程遠いものであることは誰しも否定し得ないところであろう．世界各地では相変らず戦争が繰返され，その背後には共産主義の世界革命の完遂と云う野望が解放戦争と云う残虐な美名に隠されていたのである．

核兵器の異常な蓄積とその破壊力の増大によって第３次大戦は地球そのものの破壊であると云うことが明らかであるにもかかわらず，米，ソ両超大国は巨費を投じて益々戦争準備に狂奔しているかに見える．米国は宇宙に於て核防衛態勢の網を張るＳＤＩ構想を打ち出し，遂にソ連を軍事交渉の場に出て来させることに成功したが，この交渉の前途を楽観し得る材料は何もないのである．米，ソ両超大国の間にわだかまる不信感を友好的な協力関係に変容させる可能性は想像することすら不可能であるからである．シルクロードを通ずる2000年来の東西の交通さえ今や核兵器によって武装した憎悪と破壊のイデオロギーによって寸断されているのである．

このような絶望的とも見える世界を前にして，文鮮明師が提唱された世界ハイウェイ構想とその一環である日韓トンネル構想は，全く非現実的なものと考えられるのが当然と云えようが，さて世界をこのままに放置すれば如何なる結果となるかに思いを致す時，その対策としての世界ハイウェイ構想が人類平和のため我々の為し得る具体的な努力目標として理想的なものであることを理解し得るのである．米，ソ両超大国は共に絶大なる核兵器保有国として東西両陣営を指導しつつ互いに抜き難い不信感を抱いて対峙しているのであ

るが，この状態が永遠に続くものとは考えられない．この状態を脱却するための我々の努力は無力のように見えるが，我々はそれを為すべきであり，為さねばならないのである．

文鮮明師のこの提案は宗教家としての師の予言的卓見であると考える．天の摂理は既にその実現のため働きつつあるかに見えるのである．争いを脱却するためには互いに協力し調和するための共通の善を見出さなければならない．世界ハイウェイの構想は冷静に考えてみれば特に共産圏にとって経済的後進性から脱却するための絶好の手段である．共産圏は第2次世界大戦後世界人口の3分の1を占めるに至ったが，繁栄する自由圏経済からの孤立によって近代化から取り残されているのが実情である．ソ連が核戦争に訴えて人類を破滅させる暴挙を敢てするのでなければ，その閉鎖的な経済を改めて自由圏とのコミュニケーションを計ることにより共存共栄の経済活性化を達成することが出来るであろう．特に中国は共産主義経済政策による国民生活水準の上昇は不可能であることを経験済みであり，米国を初め日本等自由諸国との協力によって国の近代化を進めているが，その近代化のネックになっているのが交通網であり輸送手段であることを痛感しているのであって，世界ハイウェイ構想に対しては高い関心を示していると云うことである．先ず道を作ることが近代化への必要条件なのである．中国はシルクロードの更に近代的な復活が中国の世界の中心たることを名実共に実現する唯一の方法であることを充分承知していることであろう．

この国際協力によるハイウェイ建設は世界的な一大土木事業である．現在世界の共産圏の中でも特に孤立した危険な存在である北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）も，このような雰囲気の中で孤立を続けることは不可能であり，南北を通ずるハイウェイの建設を可能にする時期が来ることは間違いないであろう．勿論今直ちにそれが可能になると云うのではない．この世界的な巨大な土木事業が可能になるには数10年を要するであろうことは，青函トンネルに要した年月を考えても当然のことである．先ず，現在の我々の目標は日韓トンネルの完成であるが，この大事業は日韓新時代のシンボルとしての役割を果たすべきであり，既に日韓トンネル委員会が着々とその準備を進めていることは周知の事実である．核兵器競争によって滅亡する人類の運命を救い得る代案は，相互理解と協調協力の精神を以て平和のため建設する世界ハイウェイと云う巨大な土木工事であると云う予言は突飛なことのようであるが，人類の運命を救うためにはこのような発想の転換が必要であろう．しかも日韓トンネルに関しては戦前から既に其の計画があり，技術的に可能であることが証明されているのである．この計画実現へ向けての努力が，日本平和外交のシンボルでなければならない．